

二月三日に江戸に着きました。江戸では、俳句のなかまの一具庵夢南いちくあんむなんという人の家をかりて、約三か月の間、江戸から鎌倉・江の島まで歩きました。そして、俳句の友だちや学者たちと交まじわつたので須賀川のたよ女の名は、広く知られるようになりました。そのことを、次のように書き残しています。

旅なれぬころは、きくもの見るもの、野に山

めずらしく、それとさだめたる趣向しゅこうもいでこず

ふところ紙にかいつけたるくさぐさ

草枕くさまくらまくらの下の春の水

はじめて士峰しほう(富士山)を望む

父母に逢おうたこちや富士の山

〈現代語訳〉

はじめての江戸への旅なので、野や山など、見るものきくもの、ひとつひ